

LUDWIG
VAN
BEETHOVEN

SYMPHONY
NO.9
D MINOR
OP.125
"CHORAL"

NHK
SYMPHONY
ORCHESTRA,
TOKYO

DECEMBER 21
DECEMBER 22
DECEMBER 23
DECEMBER 25
2019

N

[指揮]

シモーネ・ヤング
Simone Young, conductor

[ソプラノ]

マリア・ベングトソン
Maria Bengtsson, soprano

[メゾ・ソプラノ]

清水華澄
Kasumi Shimizu, mezzo soprano

[テノール]

ニコライ・シュコフ
Nikolai Schukoff, tenor

[バス・バリトン]

ルカ・ピサローニ
Luca Pisaroni, bass-baritone

[合唱]

東京オペラシンガーズ
Tokyo Opera Singers, chorus

ベートーヴェン
交響曲
第9番
ニ短調
作品125
「合唱つき」

Beethoven
Symphony No.9
D Minor Op.125 "Choral"

第9

響音

2019年12月

21日[土|5:00pm]

22日[日|3:00pm]

23日[月|7:00pm]

25日[水|7:00pm]*

NHKホール

* 12月25日はNHK厚生文化事業団主催の
チャリティーコンサートです

発売開始:

9月29日[日]10:00 am

N響定期会員

先行発売[25日公演をのぞく]:

9月18日[水]10:00 am

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

[主催]

NHK/NHK交響楽団

NHK/NHK厚生文化事業団[25日のみ]

[協賛]

みずほ証券株式会社

はごろもフーズ株式会社

花王株式会社

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社

株式会社明電舎

9

ドイツ音楽の神髄に迫る叩き上げの「第9」

小宮正安 | Masayasu Komiya

「反時代的」ともいえるキャリア。ヤングが指揮者として現在の地位に登りつめるまでの軌跡を見ると、そう痛感せざるをえない。じっさい彼女のような指揮者は、現在非常に数少ないと言えるのだ。

何しろ昔であれば、指揮者を志す者、歌劇場で様々な下積みを重ねた末、オペラはもちろんオーケストラ曲にレパートリーを広げてゆくのが普通だった。だが第二次世界大戦後、コンクールが指揮者にとっての登竜門として機能するようになると、こうした伝統は徐々に力を失ってゆく。

そのような状況の中で、ヤングはあえて伝統的なシステムの中で自らを鍛え、頭角を現した。しかも英語が公用語のオーストラリア出身ながら、言語の異なるドイツ語圏で、ドイツ語のオペラを指揮する…。それがいかに厳しい道であったかは、想像を絶する。だがヤングはその後、ウィーンやミュンヘンといったドイツ語圏有数の名門歌劇場で活躍を続け、ハンブルク国立歌劇場の音楽監督としても数々の名演を繰り広げてきた。

そんなヤングが、ドイツ語と切っても切れない「第9」を振る。歌手も、ベングトソンはスウェーデン、清水は日本、シュコフはオーストリア、ピサローニはイタリアと国際的な顔ぶれながら、ドイツ語で歌うということの意味を身体の中に叩き込んだメンバーだ。そしてオーケストラは、ドイツ音楽の伝統を日本で継承し90年あまりのN響。ドイツ出身でないからこそ、ドイツ音楽の神髄に迫るべく叩き上げてきた音楽家たちの「第9」が、この冬鳴り響く。

[こみやまさやす/横浜国立大学大学院都市イノベーション学府教授]



シモーネ・ヤング^[1]——指揮者
Simone Young, conductor

ベルリン、ウィーン、バイエルンの歌劇場で重要な演目を任されてきた世界の第一線で活躍する指揮者。ワグナーとR.シュトラウスのスペシャリストとして知られ、世界各地の歌劇場や管弦楽団から引く手あまたの存在であり、今年10月にはウィーン国立歌劇場で新制作される歌劇でも指揮を担う。ハンブルク国立歌劇場の芸術監督とハンブルクフィルの音楽総監督などを経て、現在はローザンヌ室内管弦楽団の首席客演指揮者を務めながら、各国の主要オーケストラに客演。来年にはニューヨークフィルやパリ管弦楽団との共演も予定されている。

マリア・ベングトソン^[2]——ソプラノ
Maria Bengtsson, soprano

役柄の内面を深く掘り下げた歌唱で、音楽に深みを与えることの出来るスウェーデン出身のソプラノ。モーツァルトとR.シュトラウスを得意とし、昨年11月にはリッカルド・ムーティの指揮する《コンファン・トゥッテ》で主役を務めるなど、一流指揮者との共演を重ねている。オーケストラの演奏会への出演も多い。

清水華澄^[3]——メゾソプラノ
Kasumi Shimizu, mezzo soprano

オペラやコンサートで、近年ますます存在感を増す注目のメゾソプラノ。今年の2月には新国立劇場で西村朗の新作オペラ《紫苑物語》、6月には東京二期会での《サロメ》に出演し、聴衆を強く惹きつける歌唱で公演を成功に導いた。パティシエとニャオヴィオッティといった話題の指揮者との共演も多い。二期会会員。

ニコライ・シュコフ^[4]——テノール
Nikolai Schukoff, tenor

演技派として知られるオーストリア出身のテノール。ワグナーを得意とするが、他にも新作オペラの初演やジグムント・シュピールやオペレッタのように芝居だけの場面がある演目でも存在感を発揮する。ヤングとは2017年にベルリン国立歌劇場のガラコンサートにおいて《ワルキューレ》のジークムント役に共演し、成功を収めている。

ルカ・ピサローニ^[5]——バス・バリトン
Luca Pisaroni, bass-baritone

深みのある声、豊かな声量、高い演技力により、ブロムシュテットからドゥッダメルまで、様々な世代の指揮者からの指名を受けるイタリア出身の実力派バス・バリトン。古楽によるバロックオペラから、モーツァルトやロッシーニを主たるレパートリーとして、フランス・オペラでも優れた歌唱を聴かせている。

東京オペラシンガーズ——合唱
Tokyo Opera Singers, chorus

1992年に小澤征爾の指揮、蜷川幸雄の演出によるオペラ公演に際し、東京を中心に活躍する若手・中堅世代の声楽家によって結成される。その後も継続的に、セイジ・オザワ、松本フェスティバルや、東京・春・音楽祭などに出演。一流指揮者との共演を重ねてきた。圧倒的な声量と美声を誇る、日本トップクラスの合唱団。

[プロフィール執筆: 小室敬幸/音楽ライター]

料金[税込]:

一般

S ¥15,000

A ¥12,000

B ¥9,000

C ¥6,500

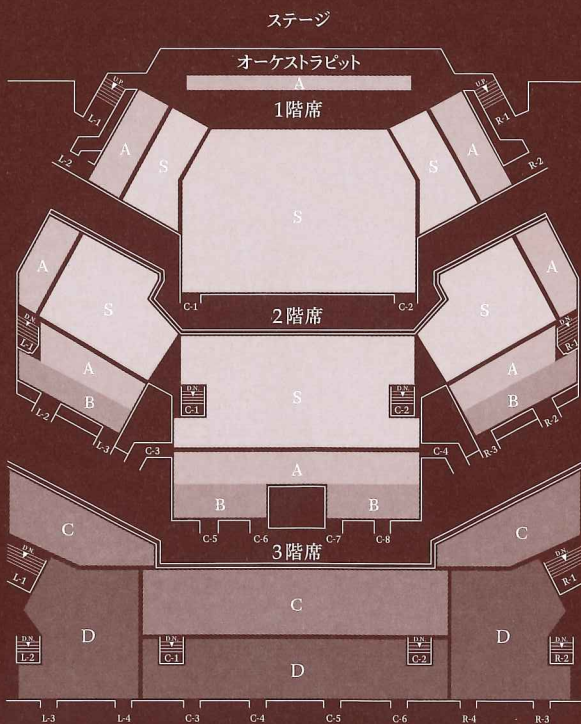
D ¥4,500

ユースチケット

[25歳以下]

C ¥4,500

D ¥2,500



- ユースチケットはN響ガイドのみの取り扱い。[来場時に25歳以下の証明となるものをご提示いただけます]
- 定期会員は一般料金から10%割引[25日をのぞく]
- 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響、N響ガイドのみの取り扱い
- 車いす席をご希望の方は、N響ガイド[25日のみNHK厚生文化事業団]へお問い合わせください

前売所

- WEBチケットN響:
ticket.nhkso.or.jp/s/
(手数料無料)
- N響ガイド: 03-5793-8161
- チケットぴあ: 0570-02-9999
pia.jp/t/nhkso
Pコード: 156-525/158-559[25日のみ]
- e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット: 0570-000-407
l-tike.com/nhkso
Lコード: 32045/34112[25日のみ]

お問い合わせ

- N響ガイド: 03-5793-8161
平日: 10:00am-6:00pm,
10/7, 11/18, 12/2, 12/24は休業、
9/29(日)は電話受付のみ営業
[10:00am-3:00pm]
- NHK厚生文化事業団[25日のみ]:
03-5728-6633
平日: 10:00am-6:00pm

託児コーナー[満2歳～未就学児]

対象公演日: 12月22日[日]

お申し込み: 株式会社ファミリーサポート

メール: houjin@familysupport.co.jp

[件名を「N響託児コーナー申し込み」と記載してください]

TEL: 03-3377-3177

[平日9:00am-6:00pm]

お申込み締め切り: 12月19日[木]

[有料/定員になり次第受付終了]

NHKホールへのアクセス

JR/原宿駅 徒歩10分

東京メトロ/明治神宮前駅、代々木公園駅

徒歩10分

JR・東京メトロ・東急・京王/渋谷駅

徒歩15分

- 出演者等が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください
- 未就学児のご入場はお断りしています。

Follow us on: